

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
岡山理科大学専門学校	昭和50年4月14日	村岡 正	〒700-0003 岡山県岡山市北区半田町8-3 (電話) 086-228-0383				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人加計学園	昭和36年9月20日	理事長 加計 晃太郎	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 (電話) 086-252-3161				
目的	建築技術者として必要な専門知識と実践的技術を習得し、地域に貢献しうる人材を育成することを目的とする。また、就労者にとって就業時間後に職業実践に関わる再教育の場を提供する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	建築学科		平成7年 文部省告示第7号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間		105	58	8	38	1
単位							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80人	93人	4人	28人	32人			
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は100点を満点とし、60点以上を合格とする。評価は100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可とし、59～0点を不可とする。			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	本校に2年以上在学し本校が定めた授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者に対して校長は総長と協議の上、卒業と認定する。 また学科に定める規定単位数を修得した者に対して進級と認める。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 三者面談、電話・メール連絡、保護者への連絡		課外活動	■課外活動の種類 古民家再生論の校外研修 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 総合建設業、住宅会社、工務店 ■就職率 <sup>*1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>*2</sup> : 67% ■その他 (平成 28年度卒業者に関する 平成29年3月31日 時点の情報)		主な資格・検定等	二級建築士(受験資格) 宅地建物取引主任者 インテリアコーディネーター 二級建築施工管理技術検定 cad利用技術者 福祉住環境コーディネーター検定			

中途退学 の現状	■中途退学者	7名	■中退率	7.5%
	平成28年4月1日 在学者	93名	(平成28年4月1日 入学者を含む)	
	平成29年3月31日 在学者	86名	(平成29年3月31日 卒業者を含む)	
	■中途退学の主な理由	進路変更、経済的理由		
	■中退防止のための取組	保護者を交えた三者面談、チューター制によるカウンセリング、専門のカウンセラーの常駐		
ホームページ				

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国家試験受験資格要件を満たす必須科目の他、最新の知識・技術の修得に応じる科目について、業界と学術の双方からの要人を編集委員に迎え入れて、カリキュラムの構成に配慮している。また、専門職業人としてかつ、関係業務従事にも対応できる人材の養成を目指し、業界・企業の要望を真摯に取り入れるべく、業界の第一線で活躍し、専門に造詣深い講師を招聘することに努めている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年12月7日現在

名 前	所 属
村尾 昌俊	株式会社 大本組 建築本部次長
山崎 雅弘	岡山理科大学工学部建築学科教授
延原 政憲	株式会社SID創研 建築設計部部长
村岡 正	岡山理科大学専門学校 校長
湯浅 康生	岡山理科大学専門学校 教務課長
高木 宣徳	岡山理科大学専門学校 建築学科長

(開催日時)

第1回 平成28年5月11日 14:00～

第2回 平成28年12月6日 14:00～

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

夜間授業の特異性から、外部への実習・演習が難しく、多くの履修科目に企業等からの招聘講師を充てている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築施工図Ⅰ	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	(株)大本組
建築施工図Ⅱ	各種施工図の内容を理解すると共に、基本的な各種施工図の作成ができるようにする。	(株)大本組
CAD実習Ⅲ	CAD、CGソフトの基本操作、プレゼンテーション制作スキルを習得する。より豊かに表現するためのプレゼンテーションテクニックを学ぶことによって、より現実的な空間把握能力を養う。	有限会社アーキテクトニクス
CAD実習Ⅳ	CAD、CGを統合的に用いて、設計、プレゼンテーションを総合的に行うスキルを習得する。また卒業設計を補完しながら統合的に表現する技術も同時に学ぶ。	有限会社アーキテクトニクス
ワークショップⅡ	各種講演、インターンシップ、奉仕活動、資格対策講座等	倉敷建築工房(有)檜村徹設計室、岡山県真庭市
ワークショップⅢ	各種講演、インターンシップ、奉仕活動、資格対策講座等	倉敷建築工房(有)檜村徹設計室、岡山県真庭市

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

専門教員に対し、建築士の定期講習会・各種講習会に積極的参加を要請している。専任教員2名は大学(岡山理科大学工学部建築学科)の非常勤講師を務め、常に最新の建築工学を研究しており、学術交流に奏功している。また、キャリア教育の研修に企業訪問や研修講座に派遣。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
洗井 健一	一般社団法人 岡山県建築士会会長
春名 章宏	公益社団法人 岡山県獣医師会会長
國近 寛康	公益財団法人 岡山県動物愛護財団事務局長
平尾 智子	一般社団法人 ジャパンケルクラブ 中国ブロック協議会会長
山本 拓哉	有限会社 マリンシアター 代表
中塚 利信	同窓会長、有限会社 中塚銘木店 代表
平井 義一	玉野総合医療専門学校 校長
木畑 廣伸	吉備高原学園高等学校 校長
庄 公寿	庄屋電装 株式会社 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

<http://www.risen.ac.jp/evaluation.html>

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.risen.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科昼間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎数学	建築で用いる数学の習熟を図るため。四則法則・三角関数・方程式・式の変形・電卓の使い方を学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
○			デザインⅠ	西洋美術史の概要を把握する。二次元、平面への表現にとって基本的な能力を養う。	1後	60	2				○	○		○	
○			デザインⅡ	三次元、立体への表現方法を探る。建築のプレゼンテーションに必要なレイアウト、着色、パース等の技術を習得する。	1前	60	2				○	○		○	
○			デッサン	建築要素の中で美術一般、特にデッサンおよびデザインがどのような役割を占めているかを実習を通して学ぶとともに、立体を表現する技法を習得する。	1前	30	1				○	○		○	
○			キャリアマナー	ビジネスマナー、コミュニケーションを学び、社会人として活躍する力を身につける・就職面接の準備等。	1前	30	2	○				○		○	
○			RS特別講義	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2後	30	2	○				○		○	
○			建築計画Ⅰ	良い建築を創造したり、また改善（リファイン）するためには、建築空間と人間との関係を学ぶことが必要不可欠となる。そのための理念やプロセス、計画手法等について幅広い知識を学ぶ。	1後	30	2	○				○		○	
○			建築計画Ⅱ	各種建築物（集合住宅、学校、幼稚園、保育園、事務室、商業施設、図書館、医療施設宿泊施設、その他）の種別毎にその計画手法を学ぶと共に共通項としての計画倫理も同時に学ぶ	2前	30	2	○				○		○	
○			環境工学Ⅰ	建築環境工学の基礎について講義する。気候、熱、湿気環境について行う。	1前	30	2	○				○		○	
○			環境工学Ⅱ	建築環境工学の基礎について習得する。結露、空気環境、音環境、光環境について学ぶ。	1後	30	2	○				○		○	
○			建築設備Ⅰ	建築設備の基礎について講義する。給排水衛生設備、電気設備について行う。	1前	30	2	○				○		○	
○			建築設備Ⅱ	建築設備の基礎について講義する。空気調和設備、給排水衛生設備について行う。	1後	30	2	○				○		○	
○			建築史	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。	1前	30	2	○				○		○	

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科屋間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インテリアデザイン	快適な生活環境を造るために、空間を内からとらえ、人間の心理や行動あるいは、スケールで捉えた空間・材料などの知識を講義する。	2前	30	2	○			○			○	
○			福祉住居論	住居・住宅は、個人としての人間生活の基本となる限られた固有の空間であることから、地域性、個人の趣向、自然・地勢などの諸条件と密接に関連している。ここでは福祉的な視点に立って、改めて様々な住居とそれを取り巻く環境について考察する。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築法規Ⅰ	建築物を造り、そしてこれを維持していく上の秩序として、社会的に要求されるものが建築法規である。ここでは、建築基準法を中心とした法体系の概念、総則規定、単体規定について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築法規Ⅱ	建築法規Ⅰに続いて、建築基準法・同施工令の集団規定ならびに関係法令（建築士法、建設業法、都市計画法、ハートビル法など）について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			総論計画	計画関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行い、問題を理解する。	2後	30	2		○		○			○	
○			総論法規	建築法規の総括としての復習と、併せて建築士受験対策として問題集を中心とした演習を通じてより深い知識を習得する。	2後	30	2		○		○			○	
○			基礎・構造	建築の実例に当たり、身近な材料を使って実験しながら、構造のおもしろさと大切さを知ってもらうこと。ニュートン力学の基礎的な理解を踏まえ、構造力学のはじまりを解説する。	1前	30	2	○			○			○	
○			一般構造Ⅰ	建築全般についての初歩的知識、また深い知識を得る前に、浅く広い知識を技術全体のバランスを取りながら身に付ける。	1前	30	2	○			○			○	
○			一般構造Ⅱ	建築物を構成する部位別の構法（機能、名称、納まり等）及び、それらに使用する材料についての基礎知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○	
○			構造力学Ⅰ	建築構造力学の基本的な知識（静定構造物）の理解と解析力の育成。	1後	60	4	○			○			○	
○			構造力学Ⅱ	構造部材応力度、断面の性質、変形を主に、不静定構造の解法を習得する。	2前	60	4	○			○			○	
○			構造設計Ⅰ	鉄筋コンクリート造構造物の基本的な知識と、構造設計が可能な能力の習得。	2前	30	2	○			○			○	
○			構造設計Ⅱ	自然界から受ける外力と、自重・積載荷重に耐える鋼材を用いた骨組みの設計計算を理解する。	2後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科屋間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			木構造Ⅰ	木造建築の構造、構法に関する基本的な事項について、木造住宅を中心に講義する。	1後	30	2	○			○			○	
○			木構造Ⅱ	木構造Ⅰに続いて、木造住宅を中心に講義する。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築材料	建築に用いられる材料はきわめて範囲が広い、主に建築構造の基材となる鋼材、コンクリートについて講義する。	1前	30	2	○			○		○		
○			材料実験	建築材料の中で、代表的なもの（木材、セメント、コンクリート、鋼材）を取り上げ、その力学的性質、化学的性質などを、実験を通して体験する。また、それぞれの材料がもつ特性を相互に比較検討し、より理解を深める。	2前	30	1			○	○		○		
○			総論構造	構造関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。建築構造のおもしろさに改めて注意を喚起し、さらに構造力学を勉強したい学生のために、力学の入口、曲げ理論をきちんと解説する。	2後	30	2		○		○			○	
○			建築施工Ⅰ	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築施工Ⅱ	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築積算Ⅰ	建築積算の基本的な考え方、正しい積算方法を習得する。また、コスト面から計画や工事が考えられ、建築物を性能の面から評価し責任の持てる技術者の育成を行う。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築積算Ⅱ	鉄筋コンクリート造の鉄筋、鉄骨造の仕口部溶接について重点的に教える。正面から技術習得を目指す、技術者の育成の第一歩とする。	2後	30	2	○			○			○	
○			建築測量実習	建築測量は、各種工事の計画・設計、施工などに対し重要な指針を与えるものである。そのため、測量技術の概要を理解させることを主題とする。	2前	30	1			○	△	○	○		
○			建築施工図Ⅰ	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	2前	30	1			○	○			○	○
○			建築施工図Ⅱ	各種施工図の内容を理解すると共に、基本的な各種施工図の作成ができるようにする。	2後	30	1			○	○			○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科昼間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総論施工	建築施工の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。	2後	30	2		○			○			
○			基礎製図	製図用具の使い方、文字、線の描き方を習得し、木造や鉄筋コンクリート造の作図表現について模範図の模写をしながら表現力と読解力を養う。	1前	60	2				○	○		○	
○			設計製図Ⅰ	教科書にもとづく、木造の矩形図および鉄筋コンクリート造の製図実習を通して、図面を読む力と製図する力のステップアップをめざす。	1後	60	2				○	○		○	
○			設計製図Ⅱ	1年次において習得した製図の基礎、図面の表現方法等をもとに、与えられた計画条件により設計、製図を行う。期間中2～3課題を提出する。	2前	60	2				○	○		○	
○			設計製図Ⅲ	二級建築士の製図試験に備え、与えられた諸条件を正確に理解し、設計できるようにする。	2後	60	2				○	○		○	
○			卒業設計	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。またテーマやそれに基づく諸々の条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。	2後	120	4				○	○		○	
○			CAD実習Ⅰ	2次元CADの基本操作を学ぶ。様々な作図やトレースによってCADの操作技術やテクニックを習得し、正確な作図能力を養う。	1前	60	2				○	○			○
○			CAD実習Ⅱ	CAD実習Ⅰを通じて身につけた操作やテクニックに加え、詳細な応用技術を学ぶ。CADによる製図をより豊かに表現するためのプレゼンテーションテクニックを身につけ、より現実的で豊かな表現力を養う。	1後	60	2				○	○			○
○			CAD実習Ⅲ	CAD、CGソフトの基本操作、プレゼンテーション制作スキルを習得する。より豊かに表現するためのプレゼンテーションテクニックを学ぶことによって、より現実的な空間把握能力を養う。	2前	60	2				○	○			○ ○
○			CAD実習Ⅳ	CAD、CGを統合的に用いて、設計、プレゼンテーションを総合的に行うスキルを習得する。また卒業設計を補完しながら統合的に表現する技術も同時に学ぶ。	2後	60	2				○	○			○ ○
		○	ワークショップⅠ	各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	1前	30	1				○				
		○	ワークショップⅡ	各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	1後	30	1				○	○		○ ○	

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科昼間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ワークショップⅢ	各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	2前	30	1			○		○		○	○
		○	ワークショップⅣ	各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	2後	30	1			○					
		○	インターンシップ実習	インターンシップ等		30	1			○		○		○	
合計						42	科目	2130単位時間( 105 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各科目において学習評価と出席時数による認定によって取得された総単位数が105単位以上であること(全科目必修)。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。